

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.3.15 No. 160 連絡先 FAX 042-555-1911



オスプレイ 本土初訓練（四国・紀伊半島）住民の不安や反対の声 広がる

普天間基地配備の米海兵隊垂直離着陸機MV 22 オスプレイ 3機が6日、岩国基地に到着。紀伊半島から四国地方に設定した「オレンジルート」で国内初の低空飛行訓練を実施しました。7日には3機の中の2機が本土では初めての夜間飛行訓練を行いました。



オレンジルートは、和歌山県中部から紀伊水道を横切り、急しゅんな四国山地を縦断します。ルート周辺では、1994年に高知県本山町と土佐町にまたがる早明浦(さめうら)ダムの湖面で低空飛行していた米空母艦載機が墜落。1999年には、空中給油中に接触した攻撃機1機が土佐湾沖に墜落しました。

岩国基地周辺や低空飛行訓練ルート下の地域などで住民の不安や反対の声が広がり、関係自治体や市民団体は訓練期間の3日間、監視行動に終日取り組みました。

今回の訓練では、低空飛行訓練の高度が比較的高く、夜間訓練の飛行時間は約40分で、低空飛行訓練は行われなかったようです。今後の本格的な訓練に向けた既成事実づくり、地ならしの色合いが濃く、今後、本土の基地や低空飛行訓練ルートでの訓練が激しさを増す危険があります。

3月15日号の平和新聞に詳しい記事が載っています。是非、ご覧ください。

11日～21日 米韓合同軍事演習「キー・リゾルブ」 米韓13,500人参加

米国と韓国両軍は11日、定例の合同軍事演習「キー・リゾルブ」を韓国で開始しました。21日まで続きます。「キー・リゾルブ」は昨年並みに韓国軍約1万人、米軍約3,500人、および在韓国連司令部の加盟国の兵士が参加する大規模なものです。米韓は1日から約21万人が参加する野外機動訓練「フォールイーグル」を続けており、合同訓練が本格化しています。

3度目の核実験を強行した北朝鮮は、国連安全保障理事会の制裁強化決議と並び、合同演習実施に強く反発。11日をもって朝鮮戦争休戦協定を白紙化し、過去の南北不可侵に関する合意を破棄すると宣言しています。韓国の国民からはこの演習に反対する抗議の声が上がっています。

3月12日 横田基地 UH-60A高官輸送ヘリコプターや C-17大型輸送機



12日午前、横田基地、高官輸送ヘリコプター UH-60A が離陸しました。数人がこれを見ていました。ヘリの左側後方の窓に4つ星(大将)のプレートがありました。C-37B 高官輸送機も来ていました。

「キー・リゾルブ」の物資の輸送のためなのか、大型輸送機 C-17A の離着陸が増えています。横田基地では通常はハワイ・ヒッカム空軍基地とアラスカ・エルメンドルフ空軍基地からの C-17A が主ですが、10日からは、サウスカロライナ州チャールストン基地、ワシントン州マッコード基地の2機、カリフォルニア州トラビス空軍基地の C-17A と、ウエストバージニア州空軍州兵(マーチンスブルグ基地)の C-5A 大型輸送機が飛来。(写真:横田ブログより)



「パラシュート降下は横田基地にとって最重要な任務」？ (No. 160 の裏面)

福生市議会 3 月定例会で「米軍横田基地について」の奥富喜一議員の質問に、加藤・福生市長は、「何故、横田基地でパラシュート降下訓練が行われるのかについては、横田基地からは、パラシュート降下は横田基地にとって最重要な任務であり、その能力を維持するためにも、パラシュート降下訓練は必要不可欠な訓練と聞いている」と答弁しました。

答弁は、横田基地から聞いたことを、ただくり返しているだけです。何故、最重要な任務なのか、何故、その能力を維持するために、横田基地で訓練しなければならないのか、不明です。

嘉手納基地の米軍パラシュート訓練は、アフガン、イラク作戦に直結していた

2011 年 2 月 16 日、沖縄の米空軍嘉手納基地で県や周辺自治体の中止要請を無視して、パラシュート降下訓練が強行されました。

沖縄防衛局から沖縄県基地対策課への通知によると、訓練を行ったのは、嘉手納基地の第 353 特殊作戦群の MC-130 特殊作戦機と、第 18 航空団と第 353 特殊作戦群の兵士 6 人です。

使用された MC-130 特殊作戦機は、現地での監視行動によると、コンバットタロン（たたかう猛鳥のかぎ爪）II と呼ばれる機種でした。米空軍の説明資料（ファクト・シート）によると、コンバットタロン II は、接近困難な敵地に特殊部隊を潜入させるため、夜間、悪天候をついてひそかに着陸したり、敵の背後にパラシュートで降下させたりするのが主な任務。「アフガニスタンやイラクにクルー（乗組員）を絶えず派遣している」としています。

また嘉手納基地報道部は、「赤旗」紙の問い合わせに対し「パラシュート要員がいるのは（第 353 特殊作戦群では）第 320 特殊戦術中隊、（第 18 航空団では）第 31 救難中隊だけ」だと回答。両中隊に所属する兵士計 6 人が訓練を行ったことが明らかになりました。

第 320 特殊戦術中隊には、▽敵地にパラシュートで潜入し、味方機の着陸地帯を確保するとともに、航空管制を行う「戦闘管制官」▽戦場で負傷兵の捜索・救助・退避を行う「パラシュート救難隊員」一などが所属。イラク戦争の始まった 2003 年以来、これら兵士をアフガンやイラクに継続的に派遣しているとしています。第 31 救難中隊もパラシュート降下による救難活動が主な任務で、イラクに繰り返し派遣されています。

パラシュート降下訓練は、アフガニスタンやイラクでの特殊作戦に直結していたのです。

このような「日本防衛」とは無縁な軍事作戦のために、米軍横田基地でパラシュート降下訓練が行われています。2012 年には 600 人を超えるパラシュート訓練、2013 年になっても無通告で、たびたびパラシュート訓練が行われていますが、部隊名や人数は不明です。

隠すのは、敵地潜入の能力を維持するためのパラシュート降下訓練だからではないでしょうか。

米軍は安保条約や地位協定を盾に、基地を勝手に使用しています。まるで植民地です。

キャンプ座間への陸上自衛隊中央即応集団司令部移駐反対！ 3.20抗議集会

◎とき 3 月 20 日（水） ◎ばしょ 座間公園

（小田急相武台前駅徒歩 15 分）

集会 & 基地抗議 & 平和行進

陸上自衛隊中央即応集団司令部がいよいよ今年 3 月末にキャンプ座間に移駐してきます。キャンプ座間には、既に米陸軍第 1 軍団前方司令部が設置されています。横須賀の海軍、横田の空軍、そして座間の陸軍の、日米軍事一体化です。



